



水野 暁《Rebirth—果樹について—》2009-2012年

画家のまなざし

写実絵画の世界

磯江 毅 水野 暁 塩谷 亮 石黒 賢一郎

2013.6.1sat - 6.29sat 桐蔭学園メモリアルアカデミウム ソフォスホール

■開館時間 10:30-17:30(入館は17:00まで) ■入場無料 ■日曜休館

■主催 学校法人桐蔭学園 ■協力 彩鳳堂画廊

お問い合わせ先：桐蔭学園メモリアルアカデミウム 神奈川県横浜市青葉区鉄町1614 TEL.045-975-2100 <http://www.cc.toin.ac.jp/MA/>

バスでのご来場をお願い申し上げます。
東急田園都市線 市が尾・青葉台各駅、または小田急線柿生駅から桐蔭学園行きバスで約15分



MEMORIAL ACADEMIUM

まなざしのその先に見えてくるもの



塩谷 亮 (Natalia) 2011年



磯江 毅《マルメロ》2004-05年

「画家のまなざし 写実絵画の世界」によせて

桐蔭学園理事長 平岩 敬一

近年、写実絵画に大きな関心が寄せられています。写実とは、対象を客観的な視点から、ありのままにとらえようとする芸術制作の方法のことを言います。ありのままをとらえるということであれば、写真と同じ、と考えるかもしれません。しかし、写実絵画には写真ではうつらないものも表現されていることが感じられます。

写実絵画は完成するまで長い月日を費やします。形や色を正確に写し取るだけではありません。静物画を例にあげれば、空のビンに堆積したほこり、皿の上の果実が腐敗していく様など、対象物そのものがたどってきた時間の経過が描かれているのです。人物画からは、そのモデルの内面といった“見えるはずのないもの”が絵から伝わってきます。

リアリズムの異才、磯江毅は「ものは見ようとしたときにはじめて見えてくる」と言っています。対象物と向かい合い、そのものの本質まで見つめようとした描写力と、写実絵画が内包している想像を超えたリアリティに私たちは圧倒されることでしょう。

本展では、現代における写実絵画の分野で注目を集めている 4 名の日本人画家、磯江毅、水野暁、塩谷亮、石黒賢一郎の作品を展示します。

写実とは何か——その問いとともに被写体と向かい合う画家たちの作品から、鑑賞眼、想像力を養い、ひとつのことを追求し続けることの偉大さを学びとってほしいと思います。そして芸術作品を深く味わう楽しみを覚えてもらえたら幸いです。

本展開催にあたり、彩鳳堂画廊および関係各位に格別のご尽力を賜りました。心より御礼を申し上げます。



石黒 賢一郎《SIN TITULO》2005年



<各駅からのバスのご案内>

- 東急田園都市線 青葉台駅よりバス
「桐蔭学園前」行、終点。または「市が尾駅」行、「桐蔭学園前」下車
- 東急田園都市線 市が尾駅よりバス
「桐蔭学園前」行、終点。または「青葉台駅」行、「桐蔭学園前」下車。または「栢生駅北口」行、「桐蔭学園入口」下車
- 小田急線 栢生駅よりバス
「桐蔭学園」行、終点。または「市が尾駅」行、「桐蔭学園入口」下車

<タクシーご利用の場合>

東急田園都市線 青葉台駅、または小田急線 栢生駅からが便利です。行き先は「桐蔭学園駅（くろがね）神社前」とお伝えください。
※駐車場はございませんので、お車の来場はご遠慮ください。